

JICA 日系社会シニアボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

やっと、本当にやっと住居が決まりました。正直、35 日間は長かった。日本を離れてすぐに、しかも 60 をとっくに過ぎた年齢で、習慣も価値観も違う異国の人たちとトイレ、シャワー、キッチンを共有する生活にはちょっと疲れしました。しかし、待った甲斐があって、とても良い大家さんに出会うことができました。これで腰を据えて活動ができそうです。

さて、今回は、私が配属されたサルタ日本語学園をご紹介します。サルタ日本語学園は、日系 4 世の翁長モイセスさんが一人で切り守りしていた学園です。学園といっても学校の様相はなく、塾のような感じです。学園に到着してすぐに、学生達が自慢の和太鼓で歓迎してくれました。想像していたものとは比べものにならないほど素晴らしい演奏でした。和太鼓の他に、剣道、合気道などの文化活動も盛んです。日本から遠く離れたアルゼンチンの北の外れの町で、これほどの腕前を見られるとは本当に驚きです。



そして、1 週間も立たないうちに七夕まつりの開催です。どう宣伝したのか分かりませんが、日本人会の人、学生とその家族、そして近所の人など 200 人余りの人々が参加した大規模なものでした。私は書道、夫はうどん作りでさっそく協力させていただきました。



日本語の授業は火曜日から土曜日の毎日、午後 2 時から 10 時にかけて、4 時間から 6 時間担当することになりました。 学習者はほとんどが非日系人で、剣道や合気道に引かれてやってきた人達や、日本のアニメが好きでやってきた人達です。学園長の翁長さんは、日本文化の普及に力を入れてられました。



サルタ来て 1 カ月以上が経ち、学園長とも学生達とも徐々に信頼関係が出来上がってきていると自負しています。 つたないスペイン語で格闘する日本語教師を暖かく迎えてくれるサルタ日本語学園に感謝・感謝です。